２０２５年度　学校法人尚学院　専修学校　那覇尚学院（高等課程）

学校だより
第**１１**号
令和７年度

いつも心に「あいうえお」

令和７年　４月３０日　（水）
発行：那覇尚学院高等専修学校
文責：校長　初鹿野修

その一言の重み

万葉の頃の人々は、使い方によって幸せと不幸せを左右する「言葉の持つ不思議な力」、言霊（ことだま）を信じていたそうです。この考え方は、右の高橋園長の「その一言」のように、現在も私たちの中に伝えられているふしがあります。

幸せの絶頂にいたのに、心無い一言によって落胆し、もうだめだとあきらめていたときに、友達からの投げかけられた温かい励ましの一言によって元気を取り戻すことがよくあります。

小学校の校長時代も「お話朝会」などの全校児童の前で話すときは、この「その一言」を大変意識していました。もちろん、今も意識し、重要なことだと考えています。これは、大勢の前ででなくても、授業やたわいもない会話の時も一緒だと思っています。

日本語の大きな変化（乱れ？とは違うかもしれませんが）が指摘され街の中や日常生活のなかにそのような事実があふれていることに、最近危機感も感じる人が増えてきています。「その一言」の重みを教職員全体で再認識するとともに、場に応じた適切な言葉遣いについても、生徒たちも一緒に考えていきたいと思います。また、言葉による励ましの逆もあること、言葉で相手を大きく傷つけることがあることも、教職員も含め、今後考え、ともに学んでいきたいと思います。

その一言

その一言で、励まされ
その一言で、夢を持ち
その一言で、腹がたち
その一言で、泣かされる

ほんのわずかな、一言が
不思議に大きな、力を持つ

ほんのちょっとの一言で

（道灌山幼稚園　園長高橋系吾）

彫りこむ　摺り込む

「屋根の版画家」と言われる寺司勝次郎氏は、次のようなことを書いています。

版画は彫りあがった版木に絵の具を塗り、上に和紙をのせ、裏から摺って仕上げる。この過程に、私は彫りこむ、摺り込むという「込む」の二字を加えている。彫るより「彫りこむ」、摺るより「摺り込む」のほうが作者の情熱と愛情が「入りこんでいる」からだ。私はこのようにあらゆる動詞に、「込む」つけることをすすめたい。

教えるより「教え込む」、憶えるより「憶えこむ」ことが大切なので。「込む」を使うには大変な努力と責任の裏付けが必要なのだ。走り込む、投げ込む、打ち込む等プロの世界にわずかに残る。惚れられるより、惚れ込まれる。見られるより見込まれたほうがうれしく元気が出るものだ。

～　職員紹介　専門科目の先生方　～

情報専任講師　伊集　朝章
日本工学院専門学校電子工学科及び情報処理科を卒業後、東京にてSE勤務５年、県内専門学校の情報科目専任講師として国家試験科目を担当する。
情報系講師述べ３５年
現在学校法人尚学院DX推進室室長

映像担当講師　田港　栄輝
神奈川県にて保育士として働いた後、HITACHIグループ医療調剤システム開発部にてSEとして勤務。沖縄に戻り、保育及びIT系専門学校にて講師を務める。現在、WEB・映像クリエイターとして活動いている。
所有資格：保育士・幼稚園教諭二種免許・上級カウンセラー・MOS上級（ITベンダー資格：エクセル）・ORACLE MASTER Silver(ITベンダー資格：データベース)・CISCO CCAI(ITベンダー資格：ネットワーク)・第二種情報処理技術者（国家資格）